

町の課題 前向きな意見を



三戸高クリエイティ部

三戸町の諸課題を考えて解決策を実行する資材 律は、町民から困りごとを改善してもらうクラフト「入れてけろ」を作った。さいたまやガチャボウ、リンゴの木などをモチーフにしてゴーラクな作成。南島は町長に対して、「楽しみながら明るく前向きに投稿してほしい」と呼びかけていた。（藤谷慶子）

クラフト目安箱「入れてけろ」制作

三戸高（直町生江校長）クリエイティ部の生徒は、町民から困りごとを改善してもらうクラフト「入れてけろ」を作った。さいたまやガチャボウ、リンゴの木などをモチーフにしてゴーラクな作成。南島は町長に対して、「楽しみながら明るく前向きに投稿してほしい」と呼びかけていた。（藤谷慶子）

認めて、本年度の全国高校総合文化選手権研究部門の「公共・産業」分野で最優秀賞に輝いている。

「入れてけろ」は、町民から意見を集めて課題を改めて作成した。部員12人が昨年11月から制作振り組み、折り込みで結んだ下下さい鏡のように入れる「鏡餅はね」、カブセルに入れて貼り付けてたわわに実る「ポン」、リンゴの実を種じて張り付けたわわに実る「りんごの木」など、楽しく投票用紙で自分の作品が完成した。

1月30日、部員10人が出席して町役場でお披露目会が開かれた。鏡餅の説明を聞いた南島校長は、昭和世代の人間に「迷いもつかないアリテア」と感嘆。南島校長は「聞いてみて」という長いをしつかり受け止め行政サービスに反映したいので、たくさんの意見を募めてほしい」と強調した。

「入れてけろ」は、町内の公

共施設や店舗に設置される。

町役場1階に設置された「ご

ろぼん！」を制作した2年の大

平珠美さんと小川真由さんは、

「小学生にガチャガチャを楽しむのが難易度を出してほし

い」「田舎の前向きな意見が集まればうれしいな」と話した。

クラフト目安箱「入れてけろ」を制作した三戸高
クリエイティ部